

支援の手だてリスト(具体例)

		⑦ ひらがなを見つけよう	
		注意を持続し、提示された視覚的な情報の中から、必要とされる情報を選択する力	
		全体への支援	より個別的な支援(教材の工夫など)
1	目標・ねらい 学習の評価	1) ・活動内容を具体的に示す ・児童生徒を主語にして「～する」「～できる」という表現にする ・一つの目標には二つ以上の内容を入れない 2) ・板書や紙に書くなどして、児童生徒が見て分かるように提示する 3) ・まとめの時間に授業の振り返りを必ず行う	1) ・振り返りシートなどを活用し、目標やねらいについての自己評価をさせる ・言語化が難しい児童生徒の場合は、項目を示し、○×でチェックさせる 2) ・シールなどによるポイント制を利用する
2	授業の構成	4) ・授業の課題、作業の進め方、流れを小黒板やカードなどで提示する ・学習の流れを一覧にし、今、どこを習っているかを矢印で示す ・学習の始まりと終わりを明確に提示する 5) ・注意を引くような視覚的な提示を行ったり、ゲームなどを取り入れたりする 6) ・1時間の授業を短い時間ごとに分けて構成する 7) ・動と静をバランスよく組み合わせる	4) ・学習の流れを示したカードを準備し、確認させながら授業に臨ませる ・学習の変わり目に、声かけをして注意を促す ・「ここまで頑張ったら終わりだよ」と声かけをして最後まで取り組ませる 5) ・具体物、挿絵、写真などを提示して、「面白いな」「早く学習したいな」と児童生徒に思わせるような発問を考える 6) ・「授業のねらいを伝える(5分)」→「みんなで音読(5分)」→「説明(8分)」→「ノートをとる(10分)」→「発表(8分)」→「授業のまとめ(9分)」というようにユニットに分けて授業を進める 7) ・授業の構成は「ドリルワーク→斉授業→グループ学習→確認→質問タイム→まとめ」という形で変化があるように工夫する